

2025 年度事業報告

2025 年度の社員総会で議決された事業計画の実施結果を以下のとおり報告する。

I. 総括

セーフティグローバル推進機構は、「安全・健康・ウェルビーイング」の実現に向け、ケガ・病気・ストレスを最小化すること（働く人々の状態をマイナスからゼロへ引き上げる）にとどまらず、さらにそれらを向上させること（ゼロからプラスへ高める）により、生きがい・やりがい・働きがいを持って働ける社会の実現を目指すべきであると提唱している。

また、IEC 白書「Safety in the Future」への参画（2020 年）や第 2 回ビジョンゼロサミットの日本誘致（2022 年）などの活動を通じて、世界各国の安全・健康・ウェルビーイング関連団体との関係を構築し、国内外における認知度向上を図ってきた。

2025 年度においては、GISHW（The Global Initiative for Safety, Health & Well-being at EXPO2025 and Beyond）の主催団体の一員として、EXPO2025 大阪・関西万博会場およびインテックス大阪において、7 月 16 日（水）から 19 日（土）まで、「The Gift for the Future “Safety, Health & Well-being for All”（未来への贈り物—80 億人の安全・健康・ウェルビーイング）」をテーマに 9 つのイベントを開催した。その結果、68 か国・地域から計 1,385 名の参加を得て、国内外におけるセーフティグローバル推進機構の認知度のさらなる向上につながった。

また 2016 年 7 月の設立以来、会長を務めていただいた向殿政男氏から、2025 年度の社員総会において井上悟志氏へ会長職が引き継がれた。本交代は、セーフティグローバル推進機構のこれまでの理念・活動を継承しつつ、持続的な発展と組織運営の安定性を確保する観点から、組織の継続性を考慮して実施したものである。なお、向殿政男氏には名誉会長として、引き続きセーフティグローバル推進機構の発展に対する助言および支援をお願いする。

II. 重点施策活動概要

1. 要員認証および適合審査

それぞれの制度の運用の安定化と受験者数、審査依頼数の増加を目的とした活動を継続した。セーフティオフィサ資格制度、Safety2.0 適合審査制度の 2 つの制度は、当初設定した目標に至らず、当該施策全体目標は未達成となった。

1) ロボットセーフティアセッサ資格認証制度

本資格制度の受験者数は、2021 年度 211 名、2022 年度 235 名、2023 年度 231 名と、一定の水準で推移してきたが、2024 年度は 202 名と減少した。2025 年度は 212 名を目標として取り組んだ結果、実績は 212 名となり、目標を達成した。

今後は、主な対象であるシステムインテグレータにおける受験者の拡大を図るため、2024 年度より開始した日本ロボットシステムインテグレータ協会（Sler 協会）向け講習会の実施および会員企業への受験促進活動を、継続・強化していく。

2) セーフティオフィサ資格認証制度

本資格認証制度の受験者数は、2020 年度 429 名、2021 年度 933 名、2022 年度 1,287 名と順調に増加してきた。一方で、2023 年度は 1,179 名、2024 年度は 812 名（新設した建設 SO83 名を含む）と減少に転じ、2025 年度は 952 名の計画に対し実績 614 名となり、計画を大きく下回った。

この主な要因としては、これまで会社施策により受験が進んできた大口顧客において対象者の受験が一巡したことに加え、新規顧客の開拓、特にセーフティアセッサ資格取得企業の裾野拡大が十分に進まなかった点が挙げられる。

なお、建設業向けセーフティオフィサ制度は 2024 年 10 月より運用を開始し、2024 年度内に 83 名が受験した。2025 年度においては、日本認証と連携して広報・販促活動を実施したものの、目標 150 名に対し実績 115 名となり目標には至らなかった。

3) Safety2.0 適合審査登録制度

Safety2.0 適合審査登録制度の新規登録件数は、2021 年度 1 件、2022 年度 0 件、2023 年度 3 件、2024 年度 1 件と推移してきた。2025 年度は 3 件を目標としていたが、実績は 0 件にとどまった。

今後は、協調安全の指針である IEC ガイド 127 が 2025 年 2 月に発行されたことを好機と捉え、同ガイドの内容を踏まえた説明会の開催や導入事例の発信、認証機関との連携強化等により認知向上と導入促進を図り、販売施策の見直しを進める。

2. 広報・宣伝活動

1)安全経営フォーラム

2025 年 6 月 18 日ビジョンセンター田町において、安全経営フォーラムを以下のテーマ・講演者で実施した。

① i-Construction2.0 ～建設現場のオートメーション化に向けて

国土交通省 大臣官房参事官（イノベーション） 森下 博之 氏

②大阪・関西万博での国際機関との協創と日本のリーダーシップ

セーフティグローバル推進機構 藤田 理事、河田 理事、高崎 理事

GISHW 事務局 赤松 浩二 氏

2) 大阪・関西万博

GISHW の主催団体の一員として、「The Gift for the Future “Safety, Health & Well-being for All”（未来への贈り物—80 億人の安全・健康・ウェルビーイング）」をテーマに、2025 年 7 月 16 日から 19 日まで、大阪・関西万博およびインテックス大阪において、計 9 件のイベントを開催した。

特にハイレベル・サミットでは、安全・健康・ウェルビーイングに関わる国際機関、各国機関、企業の代表が参加し、2 日間にわたり EXPO ホールにてスピーチおよびパネルディスカッションを実施した。

また、国際標準化フォーラムでは、初日に日本産業標準調査会（JISC）会長による開会挨拶に続き、国際標準化機構（ISO）および国際電気標準会議（IEC）の会長より、SDGs 達成に向けた両機関の取り組みに関する基調講演が行われた。その後、国内外から集まった 18 名の専門家によるパネルディスカッションが実施された。2 日目には前日の議論を踏まえた成果報告が行われるとともに、日本規格協会より採択された「安全・健康・ウェルビーイング標準化宣言」の概要が紹介された。あわせて、ISO や IEC などの標準化機関との連携を通じ、国際標準化活動を推進し、より安全で安心な社会の実現に貢献していくとともに、協調安全の重要性を発信した。

[9つのイベント]

1. ハイレベル・サミット
 2. プロフェッショナル世界大会
 3. 国際シンポジウム
 4. ILO ユースコンGRES
 5. フェスティバル
 6. 展示会
 7. 国際標準化フォーラム
 8. ファインバブルテック 国際シンポジウム
 9. G20 OSHA ネットワーク会議と国際シンポジウム
- 3) キヤノングローバル戦略研究所（CIGS）の公開セミナー

2025 年 6 月 2 日および 10 月 10 日にキヤノングローバル戦略研究所主催で国内の専門家や IGSAP 関係者による公開セミナーを開催した。

【テーマ】

AI・ロボットを実現した日本社会

（ワークプレイス・ウェルビーイングと生産性向上に向けた標準化戦略）

2025 年 6 月 2 日

[プログラム]

①イントロダクション: 会合の議題解説

キヤノングローバル戦略研究所 栗原 潤 氏

②ロボットの社会実装: 将来と課題

東京大学名誉教授、高等研究所東京カレッジ 浅間 一 氏

③日本の標準化戦略: 世界基準を目指して

日本規格協会 朝日 弘理事長

④今後のロボット政策について

経済産業省 製造産業局 産業機械課 ロボット政策室 室長 石曾根 智昭 氏

⑤ウェルビーイングに向けた人機械協調技術

産業技術総合研究所 谷川 民生 センター長

⑥人間計測・人間拡張でウェルビーイング経営を支援する

産業技術総合研究所 持丸 正明 フェロー

⑦建設業におけるウェルビーイング重視の動き

セーフティグローバル推進機構 河田 孝志 理事

⑧世界のトレンド：ウェルビーイング重視社会と日本の対応

セーフティグローバル推進機構 井上 悟志会長

⑨世界のトレンドへのアカデミアの対応 - GISHW 万博での大阪大学の取り組み

大阪大学 小倉 基次 特任教授

⑩大阪・関西万博での国際機関との協創と日本のリーダーシップ

セーフティグローバル推進機構 藤田 俊弘 理事

2025 年 10 月 10 日

[プログラム]

①イントロダクション：セミナー概要

(Global Initiative for Safety, Health and Well-being)

キヤノングローバル戦略研究所 栗原 潤 氏

②EXPO2025 大阪・関西万博での国際標準化フォーラム成果及び日本の標準化戦略

セーフティグローバル推進機構 野田 耕一 監事

③2025 大阪・関西万博/GISHW 国際シンポジウム

～ウェルビーイングアプローチの総括

「人と機械の協調安全、新時代のモノづくり」

セーフティグローバル推進機構 吹田 和嗣 理事

「建設の新時代を切り拓く革新技術」

セーフティグローバル推進機構 河田 孝志 理事

④人・機械協調における高度コミュニケーション技術とウェルビーイング向上

産業技術総合研究所 谷川 民生 センター長

⑤GISHW の新潮流：日本発『グローバル産学官連携』への挑戦

「IGSAP beyond EXPO：ホリスティックアプローチの深化」

セーフティグローバル推進機構 井上 悟志 会長

「68 ヲ国・地域の国際機関・企業との協創実現とこれからの日本のリーダーシップ」

セーフティグローバル推進機構 藤田 俊弘 理事

4) 第 10 回向殿安全賞

産業安全の向上と進歩・普及などに貢献した個または団体を表彰する「向殿安全賞」の募集を行い、審査を経て以下の受賞団体、受賞者が決定した。

表彰式は、大阪・関西万博 EXPO ホール内で実施した。

[受賞者]

団体（企業）の部

【功績賞】日立建機株式会社

受賞表題「建設機械と現場安全活動を結びつける協調安全セーフティソリューションの開発と普及」

個人の部

【功労賞】堤 和彦 氏〔前 IEC 副会長、MSB 議長〕

受賞表題「IEC 白書『Safety in the future』の発行と協調安全標準化の推進を主導」

【功労賞】安部 誠治 氏〔関西大学 梅田キャンパス長／JR 西日本鉄道本部 技術顧問〕

受賞表題「社会安全学の発展及び運輸安全・事故調査システムの確立」

【功績賞】Zhao Li〔G20 労働安全衛生ネットワーク 共同議長〕

受賞表題「G20 労働安全衛生ネットワーク、および米国労働省を通じた労働安全衛生への貢献」

【功績賞】Dee Arp〔国際労働安全衛生専門家ネットワーク（INSHPO）会長〕

受賞表題「国際労働安全衛生ネットワーク（INSHPO）による労働安全衛生への貢献」

【功績賞】Malcolm Staves〔ロレアル グローバル健康安全担当 バイスプレジデント〕

受賞表題「ロレアルグループの安全文化構築をグローバルモデルとして定着」

【功績賞】Majed bin Ibrahim Alfuwaiz〔サウジアラビア労働安全衛生評議会（NCOSH）〕

受賞表題「サウジアラビア労働安全衛生評議会（NCOSH）での労働環境の向上への貢献」

5) 安全監視団の派遣

World Robot Summit 2025（WRS2025）の「モノづくりロボットチャレンジ」に対し、ロボット委員会から安全監視団を派遣し、競技の安全確保および参加チームへの専門的な安全支援を実施した。ロボットセーフティアセッサ資格保有者を中心に安全監視団を組織し、競技参加チームが提出したリスクアセスメントおよび技術資料の事前審査を行うとともに、競技前の安全確認検査、競技期間中の安全パトロールを実施した。また、安全に関する優れた取り組みを評価する Safety Award（安全賞）の審査を行い、ROBO-SUPPO satellite チームを安全賞として表彰した。

6) 雑誌、新聞への投稿

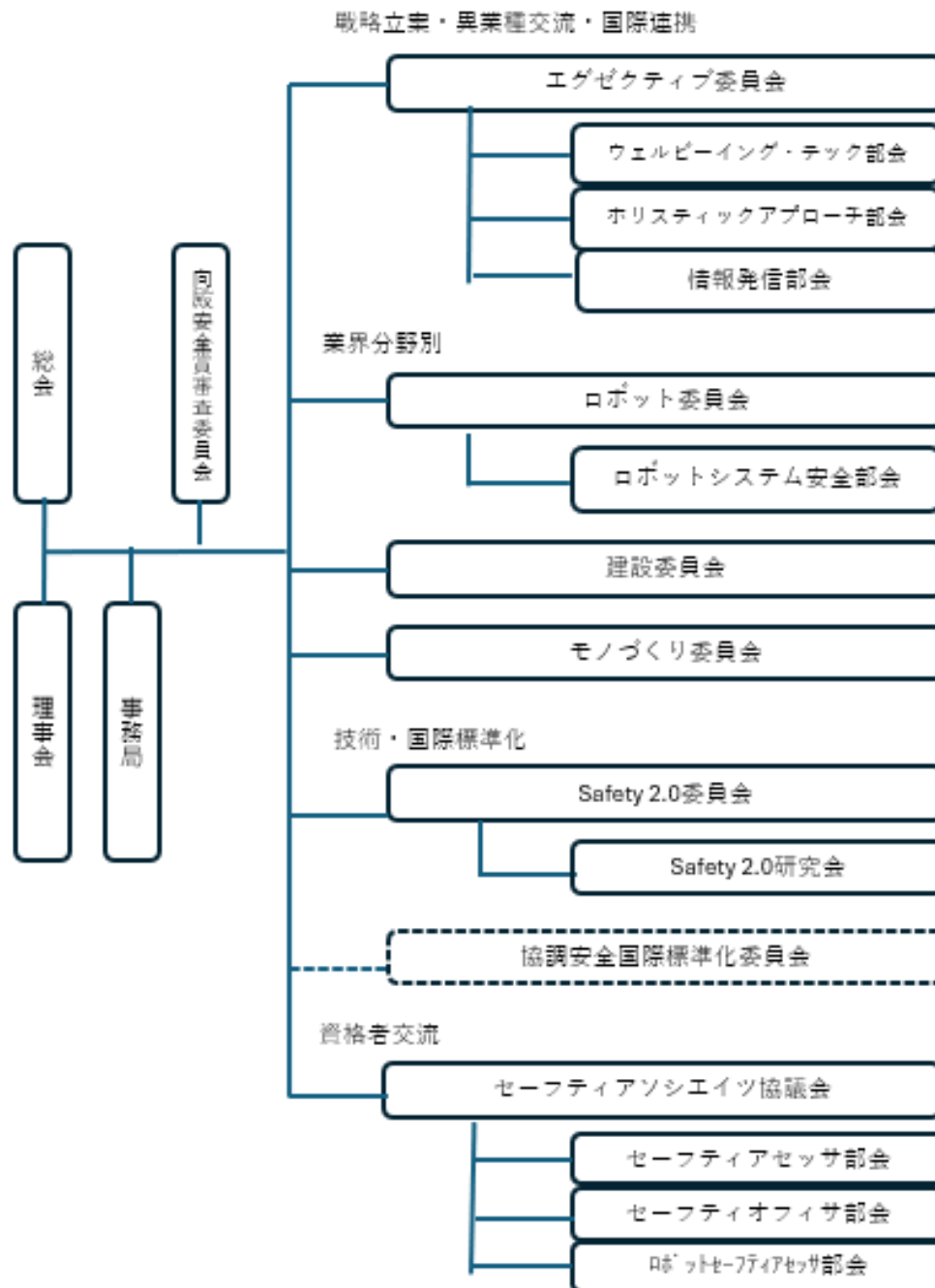
日刊工業新聞の働く人の安全・健康・ウェルビーイング紙面に、国内企業 8 社、国内関連機関 6 団体、海外企業 1 社、国際関連機関 9 団体の活動について、全 24 記事を隔週で掲載頂いた。

3. 標準化への取り組み

モノづくり委員会で検討を進めてきた協調安全に関するリスクアセスメントの成果をもとに、2025 年 8 月より、一般財団法人日本規格協会とセーフティグローバル推進機構が共同で JIS 原案の作成を開始する。これにあたり、委員会および分科会を設置し、効率的に規格開発を進めている。

4. 委員会活動

2024 年に設置したモノづくり委員会は本格的に活動を開始し、多くの会員企業の参加のもと、活発な議論・審議を行っている。また、他の委員会・協議会・部会においても、組織の魅力度向上を目指し、実施計画に基づいた活動を推進している。



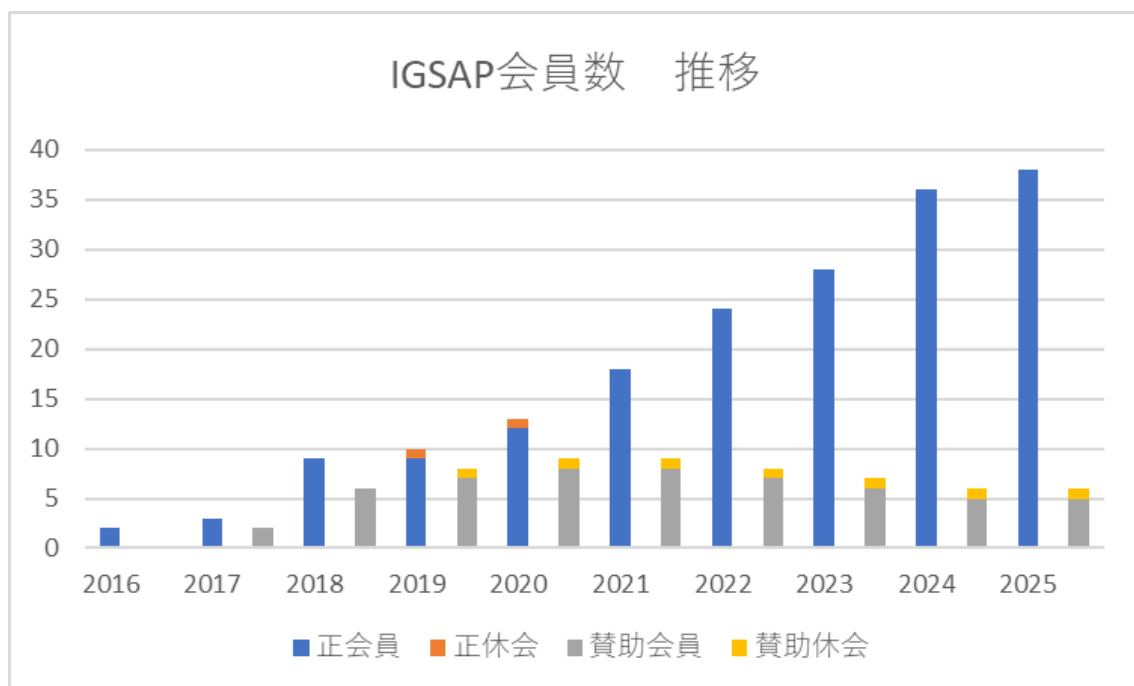
図：セーフティグローバル推進機構 の組織図

委員会、研究会、部会	責任者
エグゼクティブ委員会、安全経営フォーラム	藤田委員長
ロボット委員会	小平委員長
建設委員会	河田委員長
モノづくり委員会	延廣委員長
Safety2.0委員会、	谷川委員長
Safety2.0研究会	谷川主査
ロボットシステム安全部会	野田部会長
海外連携推進部会	藤田部会長
国内連携推進部会-ホリスティックアプローチ部会	吹田部会長
広報発信部会	栗原部会長
S A 協議会	小平会長
S A 部会	藤田部会長
R S A 部会	圖子部会長
S O 部会	黒澤部会長

表：各組織長（2025 年度）

5. 会員数

モノづくり委員会への参加を希望して、株式会社不二越、株式会社デンソー、日産自動車株式会社の3社が新しく入会した。



表：会員の入退会推移（2026 年 3 月 31 日現在）

Ⅲ. 定時社員総会・理事会の活動報告

1. 定時社員総会の開催

2025 年 6 月 18 日に定時社員総会を開催し、以下の議案について審議が行われ、原案どおり可決・承認された。

(議案)

- 第 1 号議案 2024 年度事業、ご報告の件・
- 第 2 号議案 2024 年度決算報告、監査報告、ご報告の件・
- 第 3 号議案 2025 年度基本方針及び事業計画案、ご承認の件・
- 第 4 号議案 2025 年度収支予算案、ご承認の件
- 第 5 号議案 代表理事（会長）交代、ご報告の件
- 第 6 号議案 名誉会長、ご承認の件

2. 理事会の開催状況

2024 年 4 月から 2025 年 3 月までの間に理事会を 4 回開催し、以下の事項について決議を行った。

(1) 第 1 回理事会（2025 年 5 月 15 日開催）

【議決事項】

- 第 1 号議案 正会員入会承認の件
- 第 2 号議案 2024 年度実施計画報告および決算報告 承認の件
- 第 3 号議案 2025 年度実施計画および予算案（3 月理事会からの改定）承認の件
- 第 4 号議案 向殿名誉会長 選任の件
- 第 5 号議案 事務局長交代 承認の件
- 第 6 号議案 RRI WG 入会 承認の件

【報告事項】

- 1)安全経営フォーラム講演、懇親会招待者
- 2)委員会年間スケジュール
- 3)緑十字賞(枝村氏)推薦について
- 4)標準化と品質管理全国大会 2025 の協賛について
- 5)その他

(2) 第 2 回理事会（2025 年 9 月 4 日開催）

【報告事項】

- 1) 本年度の RSA、SO、Safety2.0 の現状と今後について
- 2) 「WRS2025 モノづくりロボットチャレンジの安全派遣団について」
- 3) 「協調安全の達成を支援するリスクアセスメント」の JIS 化

- 4) 緑十字賞 受賞報告
- 5) 事務局体制について
- 6) EXPO2025 大阪・関西万博イベントにおける報告（収支、課題、今後について）
- 7) その他

(3) 第3回理事会（2025年12月17日開催）

【議決事項】

第1号議案 副事務局長職務規程の承認

【報告事項】

- 1) 本年度予算の進捗状況と期末見込み
- 2) 来年度計画と本年度計画についてと今後のスケジュール
- 3) RSA 制度のタイでの開発
- 4) WRS2025 安全監視団派遣
- 5) ホームページリニューアルから1年経過して
- 6) IGSAP の将来に向けて
- 7) 大阪・関西万博以降の活動について
- 8) その他

(4) 第4回理事会（2026年3月25日開催）

【議決事項】

第1号議案 正会員入会承認

第2号議案 業務委託料改定および顧問契約

第3号議案 来年度計画（全体、各委員会、部会）

第4号議案 来年度予算案

第5号議案 エグゼクティブ委員会 委員長交代

【報告事項】

- 1) IGSAP の今後の発展について
- 2) 社員総会、安全経営フォーラム、懇親会について
- 3) 理事会日程について
- 4) HSE の来日に伴うイベント
- 5) 第23回東京産業安全衛生大会講演
- 6) 緑十字賞、顕功賞推薦
- 7) その他（事務局連絡 理事、監事、顧問の重任、退任など）

催事	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
社員総会			18日									
理事会		15日				4日			17日			25日
建設委員会		19日				8日		28日			27日	
ロボット委員会		26日			25日			10日			16日	
ロボットシステム 安全部会		14日			18日			4日			16日	
Safety2.0委員会 研究会		19日				8日		28日			27日	
エグゼクティブ 委員会		15日				4日			17日			25日
安全経営フォーラム			18日									
モノづくり委員会		16日		3日		5日		6日		22日		12日

表：2025 年度総会、理事会、委員会、部会、研究会の開催実施日一覧

以上